



いよいよ「iPad mini」にProモデルが登場する！



2021年春にも発売されると予想されていた次期「iPad mini」だが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大による半導体不足の影響で投入されないまま夏を迎えた。しかし、ようやく次期モデルの投入情報が囁かれ始めた。しかも、かなりの機能アップが見込めるというのだ。

今年秋の次期「iPad mini」投入予想が続々

米ブルームバーグのマーク・ガーマン記者はニューズレターで、「iPad Air」を小型化したデザインの「iPad mini 6」が2021年秋に発売されると伝えた。今年3月にアップルウォッチャーのカン康氏が「mini 6は現行機にあるホームボタンが廃止され、フルスクリーンになる」と予測したデザイン情報と一致する。

アップルウォッチャーのジョン・プロッサー氏によると「iPad mini 6」でライトニング端子は廃止され、「iPad Air」や「iPad Pro」と同じUSB-C端子に変更されるという。

アナリストのミンチー・クオ氏は「iPad mini 6」の画面サイズが8.5～9インチに拡大されると予想している。「iPad Air」や「iPad Pro」同様、ベゼル（外枠）を細くすることで、本体は7.9インチディスプレイを搭載する現行miniと変わらない見込みだ。

台湾のニュースサイトDigiTimes asiaは、12.9インチ「iPad Pro」に初採用したミニLEDディスプレイが搭載されると予想している。ただ、これについてはディスプレイ業界に詳しいアナリストのロス・ヤング氏から異論が出ている。

分かれる予測の理由は「Pro」モデルの追加

注目すべきは頭脳に当たるCPUで、前出のクオ氏は「iPad Air」や「iPhone 12」シリーズに採用されている「A14 Bionic」チップを搭載すると予想。一方、アップル情報サイトの9to5Macは、今秋に発売予定の次期「iPhone 13」シリーズと同じ最新の「A15」チップを採用すると報じている。

併せて「iPad Air」や「iPad Pro」に採用されているSmartConnectorが搭載されると予想。小型のMagic Keyboardが同時発売され、ノートパソコンのように使える可能性もありそうだ。

これらの大きく分かれた予想から推測できるのは、「iPad mini」の「Pro」モデル追加だ。すなわち上級モデルの「iPad mini Pro」にはミニLEDディスプレイ、CPUに「A15」もしくは「iPad Pro」と同じ「M1」が採用される。

ストレージ容量も「iPad mini Pro」は、現行モデルの2倍の128～512GBに増えるはずだ。価格は「Pro」モデルだけに、普及版の「iPad Air」より高く「iPad Pro」よりも安い8万円前後になるだろう

一方、普及モデルの「iPad mini 6」には液晶ディスプレイ、CPUには「A14 Bionic」を搭載して価格を抑える。現行機の正常進化版と言えるだろう。価格は現行モデルと同じ5万円前後となるはずだ。

小型ながら高性能な「Pro」と、お手頃価格の「6」。「iPad mini」の選択肢が増えることで、ミニタブレット市場が活気づくかもしれない。

iPad mini proの予想スペックと現行モデルとの比較
モデル名最低価格ディスプレイCPUストレージ

iPad mini Pro
8万円前後
8.5～9 ミニLED
M1またはA15
128/256/512GB

iPad Pro
12万9800円
12.9 ミニLED
M1
128GB～2TB

iPad Pro
9万4800円
11 液晶
M1
128GB～2TB

iPad Air
6万9080円
10.9 液晶
A14
64/256GB

iPad mini
5万380円
7.9 液晶
A12
64/256GB

*ディスプレイの数字はインチ

文：M&A Online編集部

関連記事はこちら

・3月恒例の新型iPadシリーズ発表－2021年は「買い」推奨・人気のAirよりも3月発売の新型iPad miniが「買い」